



介護未経験の学生職員とのあゆみ

竜爪園サービスセンターほっこりな



まず、デイサービスほっこりーなについて紹介をさせていただきます。
ほっこりーなは定員30名のデイサービスで要支援の方から要介護5の方まで幅広く受け入れをしています。入所に比べると平均介護度は低めとなっていますが生活全般に介護が必要な方もいたり他のデイサービスよりは身体介護が必要な方が多くいる感じです。職員は運転手さんを除くと男性職員は自分ひとり。自分以外は経験豊富な女性職員で構成されています。そんな中ひとりグッと平均年齢を下げてくれている職員がいます。



2年前より配属されている内田CWです。

現在18歳、現役の高校生です。

学生ですので学校のことが中心となりますが授業のない午前中や土曜日などシフトに入ってもらっています。最近ではデイサービスの休みの日曜日に特養のヘルプとして勤務したりすることもあるので見かけたことがある人も多いのではないのでしょうか。

勤務としては2年前からになります内田CWとほっこりーなはそれ以前より縁がありました。



中学生の時に
ボランティア
として来園

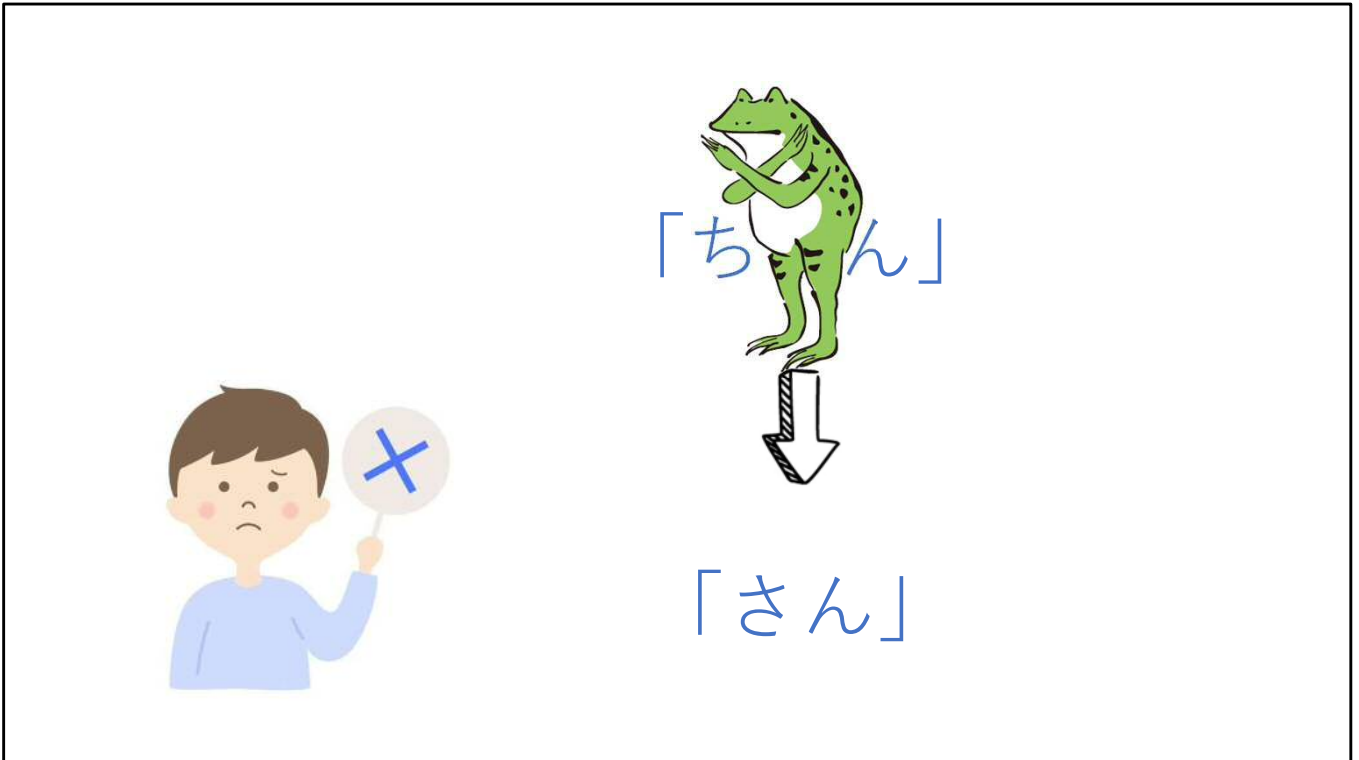
2年前より
パート職員として
入職

元々は内田CWが中学生の時に福貴部長の担当している「こどもの居場所作り」の一環として来園するようになったのがきっかけでした。学校がお休みの土曜日や祝日になるとボランティアとして来園し、お茶出しや洗い物などの軽作業をしてもらっていました。「見た目は派手だけど素直な子」という印象でした。遅刻をしたり、ちょっとふざけてしまっても「まあ中学生だからな」「ボランティアで職員じゃないしな」と大目に見てしまうこともありましたが、中学を卒業し、事業の対象から離れたことで1度関係は途切れていましたが1年後に親御さんのもとを離れ、独立することとなったため生活のため再び竜爪園に来ることになりました。最初は別の部署の所属でしたが中学生の頃に来たことのある慣れたほっこりーなに異動となりました。

どうしよう？



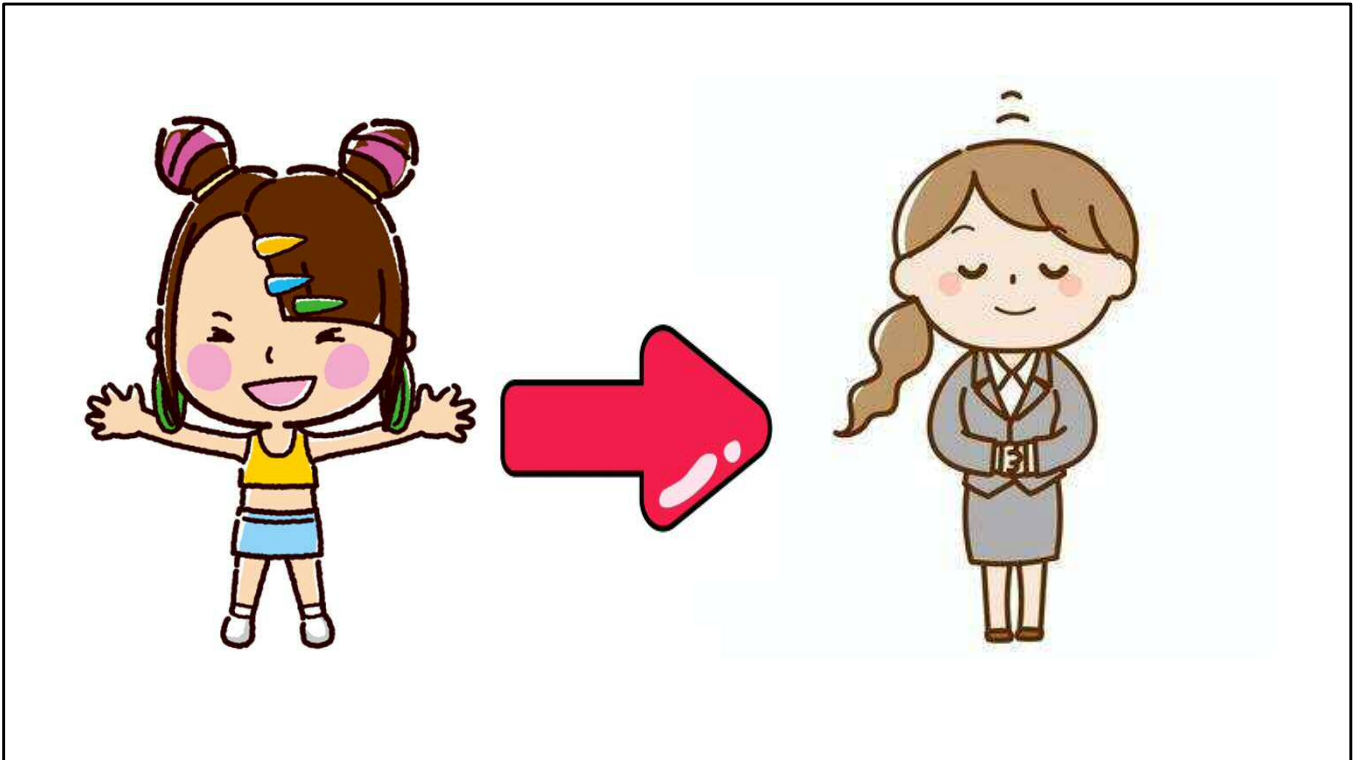
とはいえ、職員の方はちょっと混乱していました。デイではあまり若い職員の配置はなかったのと介護の勉強をしてきた訳ではない未経験の人材の受け入れはありませんでした。また、ボランティアで受け入れていた子を職員として受け入れるにあたり、今までと違う業務をお願いしていくことに対する葛藤のようなものがありました。



まずは職員・本人にボランティアでなく1職員・同僚であるという認識をつけるためにボランティア時代は名前を「ちゃん」付けして呼んでいたけどこれを禁止し「内田さん」と呼ぶように統一しました。またボランティア時代は主に洗い物など利用者に直接関わらない業務を頼んでいましたが1ケアワーカーとして動いてもらえるよう利用者さんに関わる業務にも入ってもらうようにしていきました。



入浴・排泄はまずは職員と一緒に入り、軽介助の同性利用者から始めていきました。様子を見ながら内田CWひとりでも任せられるようにしました。徐々に身体介護の必要な方の対応にも入ってもらうようにしていきました。異性の介助については慎重になりました。いくら年齢が離れているといっても思春期の女の子に入浴介助をしてもらうのは大丈夫なのか、など思いながら最初は男性の介助のタイミングでは外れてもらっていたものを本人と相談・確認を繰り返しながら少しずつ入ってもらえる部分を増やしていき、今では普通に介助に入ってもらえるようになっていきました。



そんな中でも職員が一番気に掛けたのが言葉使いでした。若く、学校以外の社会経験がないため悪気なく同年代に接するような言葉使いになってしまっていることがありました。「おじいさん・おばあさん」ではなく「人生の先輩」、更に「お客様」と接していることを意識してもらい、気になる言葉使いはその都度注意をさせてもらいました。最初はやはり窮屈そうに話していましたが今ではTPOに合わせた言葉使いが出来るようになってきていると思います。

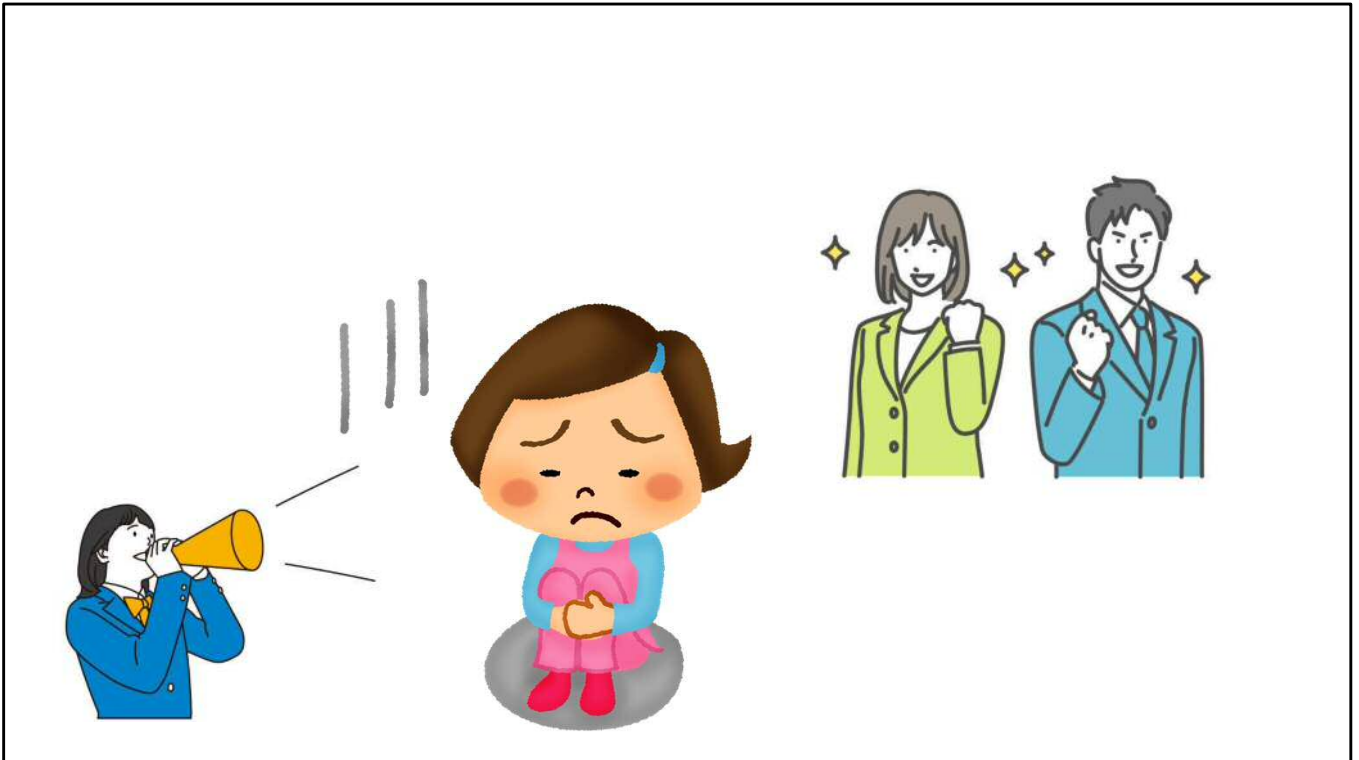
社会人としての自覚



また、社会人としての意識もこの2年で大きく変わったと思います。入社当初はまだ幼いこともあり自覚に欠ける行為もありました。寝坊などによる遅刻や無断欠勤もありました。その都度自分の方からも注意をしたり、時には福貴部長からも厳しく声掛けをしてもらうこともありました。ただ、注意をしながらも「十代の子にこんな厳しくしてどうなんだろう」とか「自分が同じくらいの年の時にはとてもこんなことできなかったのに」などと指導していくことに不安を覚える事もありました。その都度釜田リーダーや他のベテランCWに自分自身も励まされることがありました。多くの大人の支えがあり、内田CWも社会人としての自覚ができて遅刻や欠勤はなくなってきています。



若さや未経験ということが必ずしもマイナスになるばかりではありませんでした。もちろん敬意やマナーは守ったうえではありますが他の職員にはないフランクな物言いが利用者さんに好評です。「若さ」という武器を使ったコミュニケーション力は私達は使うことができませんし、対応の難しい利用者さんも動かすことができることもあり感心させられました。「おとなの学校」という回想法のレクリエーションでは利用者さんにとっては曾孫世代くらいにあたる内田さんが先生となり授業を行うので他の職員が前に出る時よりも興味を引くようです。



まだ多感な十代ということもあるので業務以外のところでも気を遣う場面もありました。

思春期特有の何かに思い悩んでしまい出社できない時などありました。私たちの呼び掛けだけではどうすることもできなかった時もありましたが、理事長や地域福祉のお2人にも介入してもらい乗り越えてきました。改めて人材は部署単体でなく法人全体で育てているのだな、と感じる機会になりました。

今後の目標

もっと周りの様子を
気にできるように
なろう



ほっこりーなの業務に慣れてきて少し課題も出て来ています。
まっすぐな性格なので目の前の利用者さんの対応に没頭してしまい、1人の方の
対応で終始してしまうことがあります。もう少し顔をあげて周りの状況を確認
できるようになることが今の目標ですね。



今後の更なる内田CWの成長を期待し、どこの部署に出ても活躍できる人材になってくれることを祈っています。